

〇「(仮称)仙台市学校教育情報化推進計画(令和5～9年度)」中間案に関するパブリックコメントで寄せられた意見と本市教育委員会の考え方について

No.	項目	意見(概要)	本市教育委員会の考え方
1	第3章 学校教育の情報化推進における基本的な考え方	とても素晴らしい計画案と思います。着実に推進してください。 特に、7ページの「これからの社会を、たくましくしなやかに生き抜く力～子どもたちが主体的に学び取るために～」という理念は、これからの子どもたちには必要な要素です。	「これからの社会を、たくましくしなやかに生き抜く力を育む～子どもたちが主体的に学び取るために～」を基本理念に掲げ、児童生徒が学ぶことの意義を実感でき、一人一人が資質・能力を最大限に伸ばすことにより、これからの社会を生き抜く力を身に付けることができるよう、学校教育の情報化に係る教育分野全般に関する施策の方向性を定め、学校教育の情報化の更なる推進を図ってまいります。
2		「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成していく必要があるという部分ですが、ICT活用がされている今、以前よりもバランスを育成していくのは何か案が必要なのかと思いました。 理由としては、私自身学校の方に介護体験で伺いましたが、昼休みになると生徒は外で遊ぶことなく、タブレット端末での動画視聴であったり、ゲームをしていたりしてました。外で遊ぶのが好きな生徒はよく外で遊ぶと思いますが、あまり外で遊ぶのが好きではない生徒には育成に偏りが生じてしまうのではないかと感じました。	本計画は学校教育の情報化の推進に関するものであり、体力の向上を目指した運動の日常化の推進については「仙台市健やかな体の育成プラン」の中で取組を進めてまいります。
3		本計画は、文部科学省の方針をそのままコピーしたもののように思います。今、仙台市が置かれている状況に対応した計画になっていないのではないのでしょうか。	計画の策定にあたっては「学校教育の情報化の推進に関する法律」に基づく国の「学校教育情報化推進計画」を踏まえることを基本としておりますが、本市における学校情報化の現状を踏まえるとともに、「震災遺構仙台市立荒浜小学校のVRによる探索」等本市独自の施策を取り入れております。
4	第4章 学校教育の情報化に関する本市の取組の現状と課題	児童生徒の視力を維持するためには健全な情報機器の活用が大切であると考えております。 このような新しい事例については細心の注意を払いつつたくさんのデータを収集し活用することがあかるい将来につながると思うので子供の視力の推移などをより細かく収集するとよいのではないかと考えました。	文部科学省の「ICTの活用に当たっての児童生徒の目の健康などに関する配慮事項」等を参照しつつ、関係機関と適宜連携しながら実態を把握し、留意事項の周知・啓発を行ってまいります。
5		教員のICT活用指導力の高めるための支援体制の充実とありますが、まず現在働いている教員はどれほどのICT活用能力があるか知らないといけないのに加え、どれくらいは最低限抑えておいてもらいたいという基準を設けたほうがプログラミング的に支援が行えるのではないのでしょうか。	本計画に「教員のICT活用指導力の状況」の評価指標に関する現状値と目標値を掲載しており、この指標目標をもとに教員のICT活用指導力を高めるためICT活用を前提とした授業づくりの研修等支援体制の強化を図ってまいります。
6	第5章 学校教育の情報化推進に向けての施策の方向性 基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成	キャリアパスポートの電子化は是非進めていただきたい。子ども、親、先生にとっても負担でしかない。管理するのがとても大変です。(そもそも有用性も感じられない。)	キャリアパスポートの電子化については、管理面における利便性向上の観点を含めて検討を進めてまいります。
7		キャリアパスポートのデジタル化は現時点で既に検討段階ではなく実装段階と考えます。キャリアパスポートのデジタル化は喫緊の課題(そもそも9年間の蓄積を紙ベースでの実施・管理すること自体に無理がある)であることから早急に進めてほしいと思います。Workspace for Educationのフォームシステムだけを利用して実現可能と考えられるので、例えば教育センターの研究事業で開発してはどうかと思います。	

No.	項目	意見（概要）	本市教育委員会の考え方
8		電子教科書については、2つの心配なことがあります。 1つ目は、紙とデジタルにおいて、紙優位の人とデジタル優位の人があるので、その特性に合わせて活用が可能になるかどうか。 2つ目は、ただでさえ中学生のカバンが重い。紙の教科書とデジタルが混在すると、タブレットの重さ分、さらにカバンが更に重くなりそうで、子供の健康面で不安である。	学習者用デジタル教科書については、国の動向を注視しながら、効果的な学びや健康面の配慮の観点から、紙の教科書とデジタル教科書の最適な組合せの検討を進めてまいります。
9		子供たちの通学の荷物の多さを思うと、15ページの「④デジタル教科書・副読本の活用」どんどんデジタル化を進めて欲しいです。	
10		SNS主にLINEを使用したネットいじめが10年前から問題となっているため、児童生徒の情報モラル教育については、是非力を入れて取り組んでいただきたいと思います。また、教職員も含めて、ID やパスワードの取扱い等、情報端末等を安全に扱うために必要な知識の指導等の情報セキュリティ教育を推進していただきたいと思います。	学校や家庭での情報モラル教育については、校長会や仙台市PTA協議会とも連携し取り組んでいるところであり、引き続き教材やリーフレットを活用して、SNSを使用する上での注意点、IDやパスワードの取扱い等の情報モラル教育及び情報セキュリティ教育を進めてまいります。
11		デジタル活用のモラル（デジタルいじめ撲滅等）、セキュリティー教育を徹底し続けること	
12		東日本大震災を経験した仙台市だからこそ、学びを保障する姿勢は大事です。これからの未来ある子どもたちには、災害やコロナ等により学ぶ機会が奪われないようにして欲しいと願っております。その意味でも、この推進計画が単なる計画にならないように推進してほしいと考えております。	東日本大震災のような災害や新型コロナウイルス感染症等により学校教育への影響が避けられない状況にあっても、児童生徒の学びを継続できるようにICTの活用に取り組んでまいります。
13		今回の推進計画がしっかりと実現することを望みます。教育は不易と流行があるとありますが、GIGAスクールは流行にあたるかと思いますが、とかく保守的な学校だと思いますが、ぜひ、失敗を恐れずにチャレンジしてほしいと思います。 10ページに「これからの学校においては、児童生徒が「個別最適な学び」を進められるように、教員が専門職としての知見を活用し、児童生徒の実態に応じて、学習内容の確実な定着を図る観点」があり、そのためのカリキュラムマネジメントとしますので、14ページに書かれている通りに進めて欲しいと思います。特に、家庭では、携帯電話使い方やパソコンの扱わせ方など、大事だと思っておりますが、時間に忙殺され、子ども任せになっています。家庭がしっかりと教育をする必要があると自覚していますが、どうしても学校の教育に期待したり、頼ってしまうことが実情として多いので、学校と家庭の連携は必要と感じています。	児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するため、年間指導計画に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに取り組みます。
14		「⑤ 先端技術の活用」には敏感に反応してほしいです。東京の学校から転勤、転校してきておりますが、仙台と東京の差が一番感じたのはこの部分です。教育委員会や教師が対応するのは大変だと思いますが、今回の中間案はその意味でも差を埋めるものと思いますので、計画の進行管理や評価指標もありますので、確実に取り組むべきだと思います。	先端技術の活用について、仙台市GIGAスクール推進協議会の大学関係者等の意見もいただきながら、児童生徒の学びの充実や教員の指導力の向上を目的に効果的な方法を検討してまいります。
15		今後、Web3、NFT、DAO、メタバース等新たな世界が出てきます。教育委員会のみならず、市長部局、企業、大学、高校とも連携して研究をし、授業に生かすこと	

No.	項目	意見（概要）	本市教育委員会の考え方
16		<p>「学校での学習にとどまらず、児童生徒が平常時から過程においても教育用クラウドなどを活用していく」とのことですが、家庭での端末使用についてどのように把握や管理を行うのが気になりました。故障した際や紛失した際に、市民から出るお金で何度も端末を変えることは難しいと思うからです。また、仙台市全体で毎日子どもたちが活用するサイトになるはずなので、アクセスが渋滞する可能性はないのが気になりました。サイトの内容やどのように活用できるものにするのか楽しみです！子どもたちの考えを共有できるページもあると面白いと感じました。記述式ではなく選択肢制にすれば、共有内容の治安維持や統一性も図れると思います。</p>	<p>端末を家庭に持ち帰ったときの注意点や留意事項について各学校から児童生徒や保護者の方に周知し、家庭での適切な端末使用の啓発に取り組んでまいります。また、学校内でアクセスが集中した場合も著しい回線速度の低下が生じないように、引き続きネットワーク環境の現状把握を行い、必要に応じて通信環境の増強等を検討します。</p>
17		<p>プログラミング教育はこれからの社会、ものを動かすにはプログラミングが重要になるため、あらかじめ動かし方について学んでおくことも重要だとは考えますが、メインとなる目的にはプログラミング的思考の育成となると考えています。そこで、個別最適な学びと協働的な学びを合わせて、プログラミング教材だけではなく、社会問題などといった多くの種類の課題について、道筋（プログラミング的思考に基づくフォーマット）を用意し、協力しながら解決させていくこともありではないかと考えました。</p>	<p>プログラミング教育については、全学年及び全教科等で、どのように組み合わせるとより意図した活動に近づくのかといったプログラミング的思考を含む情報活用能力を育成していくことができるよう、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から授業の改善を図ってまいります。また、プログラミング教育に関する教員研修については、児童生徒のプログラミング教育を推進していくうえで必要不可欠と考えておりますので、ご意見を参考に本文（18ページ）を修正します。</p>
18		<p>「② プログラミング教育の推進」の中に、「全小中学校においてプログラミング教育を全学年及び全教科等で推進します。」明記されており、特に中学校においては、プログラミングは技術分野でやるもの、という誤解が少なくないため、小学校だけでなく中学校においても全学年および全教科等で推進されることに期待しております。教材の整備や活用については明記されていますが、教員研修については明記されておりませんので、合わせてご検討いただきたいと存じます。</p>	
19		<p>教員がプログラミング教育の必要性について、正しく理解されていることが大切ではないでしょうか。 現代社会に限らず、人が生きていくうえで課題解決能力だけでなく、課題発見能力は非常に大切な能力の一つと感じます。世の中の構造を把握し、論理的に課題を解決する能力は、これからの多様化していく社会を生きていく子どもたちにはより一層の重要度が増していくのではないのでしょうか。 また論理的思考がうまく使えることは、将来実現したい夢へ向かっていく上での大きな武器にもなると感じます。 プログラミング教育を通して、論理的思考を多大に発揮し、多くの経験と学びの機会、その思考能力を鍛える場面を与えてあげてほしいと思います。 加えてプログラミング教育について学習指導要領の中では、主に小学校に限られて記載があると記憶していますが、プログラミング教育で得た論理的思考を中学校でも各教科の学びの中で取扱われるような、学校段階の円滑な接続が目指される施策も推進していただきたいです。</p>	
20		<p>児童生徒の未来を考える上で、プログラミング教育の指針を示すのは重要であり、プログラミング教育についてはよくまとめてあると思います。ただ、「情報の科学的理解」といった部分をもう少し強調すると、良いと感じました。 現在、国の方針として、AI戦略2022があり、これは数理AIデータサイエンスを学び、情報の科学的理解を深めることにあります。また、高校情報科においては、大きく改訂され、情報の科学的理解の内容が大幅に入ることとなりました。ただ、情報の科学的な理解は高校情報科だけで行うのではなく、小中を含めて、段階的に進めることが望ましいです。</p>	

No.	項目	意見（概要）	本市教育委員会の考え方
21		「③ 学校・家庭・地域における情報モラル教育・情報セキュリティ教育の推進」の中に、「児童生徒の情報モラルの実態を把握し、家庭等と連携しながら教育を進めることが重要であり、学校でも家庭でも情報モラル教材等を活用できるよう取組を進めます。」と明記されており、今の時代に必要な教育が推進されることに期待をもつことができます。この実現のためには、学校も家庭も時間を捻出するのに苦勞していることも現状です。さらに、学校や家庭で情報モラル教材等を活用した取組を行うだけでなく、その成果を評価して振り返り、継続的に取組みを改善していくことも重要であるといえます。オンライン教材に自動的に残るログなどのデータに基づいて、常に実態を把握しながら、効率的に指導できるように取組めると、この計画の意図に即したものになると思われま。	児童生徒の情報モラルの実態を把握し、情報モラル教育の取組を評価・改善しながら進めてまいります。
22		教育課程編成がこれまでのカリキュラムマネジメントのベースとして捉えるのであれば、より発展させた形で学校全体でのカリキュラムマネジメントへの取組みが、漏れなく実施されていることが重要ではないでしょうか。各学校で行われるカリキュラムマネジメントに対して、本計画に沿った活動や理解がされて、学校の地域性などに応じて確実に実施されていることが鍵になるように思います。教育委員会が、カリキュラムマネジメントが実施されていること、またそれを把握できるような取組みがあれば、より本計画が着実に推進されていること、加えて方針の修正などにも大きな材料となっていくように感じます。	カリキュラム・マネジメントの状況を把握し、各学校の教育活動の質の向上が図られるよう取り組んでまいります。
23		児童生徒への啓発としては、児童生徒向けには、プログラミング検定などを紹介してはどうか。	児童生徒の発達段階も踏まえながら、仙台市GIGAスクールサポートサイト等によりプログラミング検定について各学校へ紹介してまいります。
24	第5章 学校教育の情報化推進に向けての施策の方向性 基本方針2 教員のICT活用指導力を高めるための支援体制の充実	教員の資質向上について教員のICT活用指導力の研修により全教員が同等のICT活用ができるよう指導をお願いします。	教員のICTの活用スキルやICT活用を指導する能力等の向上に向けて、ミドルリーダー養成研修やICT活用を前提とした全教科等の授業づくり等に関する研修、プログラミング研修の充実に取り組んでまいります。また、プログラミング教育モデル校におけるプログラミング教材の活用事例等を研修に取り入れます。
25		私が子ども時代とは、良い意味で大きな学習の違いを感じております。これからを生きる子供たちにとって良いことと思います。一方で、学校の教師の力量を見ると、不安も覚えます。ぜひ、先生方のためにも研修の充実や様々な支援をして頂けると良いと思います。その点からみると、計画の中間案は、考えられていると思います。推進の核は先生方だと考えますので、早急な研修等の対応ができればよいと思います。	
26		私と同じ年代（40代）以上の教員は、教育大学で、ICTに関しては、それほど学んでいないと思いますので、研修を十分に行う必要があると感じます。年齢ごとに十分な支援が必要と思います。一方、これからの日本、仙台の未来を担う子どもたちには、本計画は必要なことと思いますので、十分に進めてほしいと思いました。	
27		教員のICT活用指導力と研修について、私としては、全教員を対象に実施してほしいと思います。 どうしてかという、若手の教員とベテランの教員とでICT周りの知識や理解度の差が大きいからです。	

No.	項目	意見（概要）	本市教育委員会の考え方
28		「①教員の資質の向上」において、ミドルリーダの養成研修は重要な観点であると感じます。宮城県や仙台市よりも先に教員の年齢の若返りが進んでいる自治体では、30代前半で教務主任を務める話も耳にします。年度単位の研修に加え、例えば3年以上の継続的な研修を行うことや、年度ごとに研修の力点を絞って計画的に行えると効果が高くなると思われます。	
29		教員のICT活用指導力の現状に関して、B：授業にICTを活用して指導する能力が他の能力より劣っているのは、問題であると考え意見を送らせていただきました。児童生徒が日常的にICTに触れるためには授業に取り入れることを最優先するべきであると考えます。	
30		学習の基盤としての情報活用能力ですので、学校によって格差が出ないように十分に各学校に対して指導を徹底して戴けますとありがたいです。	
31		教える側が全員得意である必要は無いと思っていますが、管理職や教員の個人の好みでやる・やらないという状況にならないよう、最低限のプログラミングの指導力を全員の先生が身につけるよう研修を徹底して戴けますとありがたいです。	
32		校種間の円滑な接続の必要性については学習指導要領総則に書かれておりますので、中学校の数学と理科についてはプログラミングを用いた授業が最低限実施されるべきです。現状では、技術科で扱うだけに留まっているようであれば、改善していくことをご検討いただけるとありがたいです。	
33		仙台市では、全市の小中学校に最低限共通のプログラミング教材を整備していることは、全国的に見ても大変素晴らしい取り組みと存じます。残念ながら仙台市のこの強みを活かせていないように感じます。折角仙台GIGAサポページなどで教育委員会としてモデル授業や研修用資料を用意しているにも関わらず、浸透しないのはどうしてでしょうか。	
34	第5章 学校教育の情報化推進に向けての施策の方向性 基本方針3 ICTを活用するための環境整備	P18に③教育データの利活用に関心がありました。ぜひ、具体的な方法を考えながら進めて欲しいです。教育センターに関わったこともありますので、教育センターでの研究に期待しております。仙台市は、情報活用能力とプログラミング教育が進んでいると聞いています。ぜひ、さらに進化させてください。	教育データ利活用や教育DXについて、地域の大学や民間事業者など、地域の力を学校の中に取り込み、教育現場における学習者や教育者の日々の学習や実践の改善に資する研究を進めてまいります。
35		AIドリルや授業支援システム等から得られる児童生徒の学習データが先生方の手を煩わせることなく校務支援システムと連動するようなシステム開発が、民間企業や大学等との共同研究によって実現することが仙台市の目指す教育DXの一つであると考えます。学習eポータルからアプリケーションを利用することで学習データの収集が自動化されることに期待しているところでもあります。仙台市は現時点でも他地域をリードできる可能性が高いとの認識しておりますので、具体的かつ積極的に進めることを期待します。	
36		ICT機器を部活動や行事で使用できるようにするためにも校庭での使用も可能にできるようにご配慮をいただきたいです。	体育館や校庭の通信ネットワーク等の学校のICT環境については、優先順位や教育予算を勘案しながら、その充実に努めてまいります。
37		仙台市の学校の多くは体育館や校庭にまで安定したネットワークが取れていないという話を受けました。しかし、私としては体育館や校庭などの多くの生徒が集まる場所にも安定したネットワークを配置してほしいと思います。その理由としては、避難訓練などの学習において確認事項や逃げ遅れることの危険性などについてICTを用いながら、全校で確認できればいいと感じたからです。	

No.	項目	意見（概要）	本市教育委員会の考え方
38		<p>現在仙台市の小中学校の体育館でインターネット環境がまだ整備されていないと伺いました。今現在インターネット情報が多く飛び交う中、スポーツや体操のお手本動画が多く動画配信サイトにあがっています。そのため、体育館にインターネットを置くことで体育や部活動の指導の効率化を図れると思います。実際に私はこのような動画配信サイトを見ながら部活動に励んだことで大会の成績が上がりました。そのため体育館にもインターネット環境を配備していただきたいです。</p>	
39		<p>「ICTを活用するための環境整備」について、私としては、体育館にWi-Fiを設置してほしいと思います。体育館での活動の支援となるようにご配慮をいただきたいです。 その理由は、体育の授業や部活動で有効活用できるからです。</p>	
40		<p>仙台市の学校において、体育館のWi-Fiがつかないという問題を抱えているとの情報をお聞きしました。これについて、私としては、体育館でもWi-Fi環境が整備され、ICTの活用を推進されるべきであると考えます。体育館は体育の授業はもちろん、部活動や学校行事など様々な場面で使用されると思います。そこで、ICTを活用することができれば、体育の授業における端末を活用した分析活動、部活動での分析、技術の向上など、多くの活用場面が考えられます。授業時間だけでなく部活動などの課外活動にも児童生徒たちが個人的にICTを使うことができれば、情報機器の操作などの学習した内容を日常の場面で活用する能力も身に付けさせることができるだろうと考えます。また、これらの推進により、体育館の利用シーンの幅が大きく広まると思います。</p>	
41		<p>コンピュータ室のこれからの活用において情報活用能力の育成に資する新たなスペース等への転用についても一つの選択肢とされていたのですが、それに関しまして、これから学校において情報活用能力がある程度培われてきた後に、より児童生徒がICT活用について応用的かつ主体的に学習していけるように一人一台端末として配布されているクロームブックよりも高性能なコンピュータを設置するのはどうかと考えます。勿論急な導入は難しいと思いますので、前述した様に児童生徒の情報活用能力が基盤として定着した数年先を見据えた検討をしていただきたいです。</p>	<p>コンピュータ室としてのニーズが終了した後の活用は、各校の事情に合わせて検討しますが、情報活用能力の育成に資する新たなスペース等への転用についても一つの選択肢とします。ご意見を参考にしながら、STEAM教育や豊かな創造性につながるICT環境についての研究を進めてまいります。</p>
42		<p>ニーズが終了したコンピュータ室の使用方法ですが、私としては、個人のパソコンでできないことを行う場所であってほしいと思います。例えばプログラミングを学ぶものとして教育用のマイクラフトというゲームを導入するのはどうでしょうか。ゲームを個人のパソコンに入れてしまうと授業時間外での利用されてしまう可能性があるため、あくまで授業内で行うのにとどめるために活用するというのはいかがでしょうか。</p>	
43		<p>「さらに、コンピュータ室としてのニーズが終了した後の活用は、各校の事情に合わせて検討しますが、情報活用能力の育成に資する新たなスペース等への転用についても一つの選択肢とします。」について、GIGA端末の画面サイズや解像度は小さく、プログラミングするうえで困難が生じる可能性があります。例えば、コンピュータ室に外部モニターを設置し、GIGA端末を接続することで2画面で使用できたり、STEAM教育につながる環境を整えたりするなど、ご検討いただくと良いように思います。</p>	

No.	項目	意見（概要）	本市教育委員会の考え方
44		GIGAスクール構想が進んで来た今こそ、コンピュータ室を小学校・中学校共に充実させて戴きたいです。最低限、GIGA端末の外部モニタとしてサイズと解像度の高いディスプレイを置くだけでも活動が充実できるはずで。願わくば、今後来るものが予想されるSTEAM教育も円滑に進められるようデジタル加工できる環境が構築できると大変素晴らしいことと思います。	
45	第5章 学校教育の情報化推進に向けての施策の方向性 基本方針4 学校情報化の推進とICT活用の推進体制構築	まだまだ紙での無意味な印刷が行われていると感じます。Google classroomを用いた連絡や、情報の開示など、紙媒体での印刷時間を短縮させる取り組みを、是非推進していただきたいと思えます。	学校と家庭との連絡機能の検討や学校評価アンケート等のデジタル化による紙印刷の削減に取り組んでまいります。
46		市内の小中学校に通う子供の保護者ですが、学校からのお便り等も、紙でなくても良いと思えます。	
47		「仙台市教育委員会が主催や後援する学校教育の情報化等に関する理解と関心を深めるための市民公開講座等」についても毎年実施して保護者にも開催日や内容が分かるように情報発信してほしいです。	広報等様々な方法で保護者の方に情報発信できるように周知を図ってまいります。
48		「教科等横断的なSTEAM教育の推進等の情報発信に取り組むとともに、先進的な研究や国の事業へ積極的に参加していきます。」は良いことだと思います。仙台市も積極的に取り組むのは良いことです。	ICT活用等に関する情報発信や調査研究に積極的に取り組んでまいります。
49		コミュニティスクールとの連携を図るようになると良いと思えます。コミュニティスクールで何をすれば良いか困っていると聞いています。	コミュニティスクールをはじめ地域の方々の協力を得ながら、学校の運営に取り組んでいくことが必要であると考えており、学校の情報化推進につきましても、学校運営協議会で意見をいただく等連携を図ってまいります。
50		基本方針4(2)③にはコミュニティスクール（学校運営協議会制度のことと理解します）との連携も必要に応じて検討するとありますが、推進計画を進めるためには、コミュニティスクールとの連携は欠かせない重要な要素です。保護者や市民への理解を深めるためにも積極的に推進することを望みます。	
51		推進体制が明確にされていることは、学校での本計画の推進において非常に重要だと感じました。 ぜひ、これら体制が万全に機能し、多くの議論が生まれ、その中で教員の不安が常に解消されていくような組織運営をしていただきたいと思います。また組織運営においては、時には産官学連携の姿勢で、広く、多くの意見が拾われる組織であってほしいと願います。	本計画は本市の情報化推進の基本理念と基本方針を定めるものであり、計画の実行にあたっては、学識経験者、学校長、PTA関係者の方を委員とするGIGAスクール推進協議会において助言等をいただきながら、学校等と共通認識を持って進めてまいります。
52		「本計画は、令和4年3月に定めた「仙台市学校教育の情報化推進方針（令和4～6年度）」を発展的に継承するものです。」との記載がある一方、基本的な考え方の中では「情報活用能力の育成が重要です」「教育の質の向上を図っていく必要があります」「校務を効率化していく必要があります」と記載があります。これまでの方針をより発展的に推進していくのであれば、第2章に記載のある通り「PDCA」を意識した、今後のロードマップ、またはマイルストーンについて具体的に迫った内容の記載が本計画には欲しいように感じるところです。 この点については、本市の取組と現状と課題の中で、課題がある程度明確にされているものの、どのように改善していくのかといった点に言及されていない点とも共通しているように感じました。 別途教員へ向けたルートマップやPDCAの具体的な流れ、または指標、達成状況が確認できるような資料があるのであれば、ぜひ本計画にも添付されると良いかと思えます。それらが、教員の取組みの中で感じる不安を払しょくすることにもつながらないでしょうか。	

No.	項目	意見（概要）	本市教育委員会の考え方
53		先生の事務労力を最小化するデジタル活用を早急に実施し、子供たちと接する時間を最大化することを目指すこと	ICTを活用した教員の校務効率化を進め、教員が児童生徒に向き合える環境づくりに取り組んでまいります。
54		子どもたちにICT教育を行うことに関して、教員の育成も必要となってくると思われるが、家庭とも連携した教育をしていくのであれば、保護者のICT教育に対する理解を深めることや、子どもたちと一緒に課題に取り組めるような環境を整えることが必要になってくるのではないのでしょうか。また、個人情報を安全に取り扱うことなど、情報モラルに関する教育を保護者に設けていただくことによって、より安全なICT教育を進めていくことができるのではないのでしょうか。	仙台市GIGAスクールサポートサイトや学校ホームページで保護者の方に本市の教育の情報化に関する取組について情報発信を行ってまいります。また、情報モラルに関するリーフレットや教材等を活用して、保護者の方と一緒に児童生徒が情報モラル教育ができるように取り組んでまいります。
55		端末持ち帰りに際してのルールや保護者向け資料についても発信していただけることを、期待しております。	
56	その他	デジタル制作について、先生方、生徒父兄の意見を聞き、抜本的で明確な改革対策を打つこと 既存のルールに拘泥せず、仙台市ならではの授業の提案を行うこと マイナンバー／マイナンバーカードの活用を徹底すること デジタル（繋がる、リアル＋バーチャル等）の持つ力を生かす授業を企画実施すること 市民の知識をコンテンツ作成に参加させ、郷土を愛する力を養うこと	学校教育情報化にあたっては、学識経験者、学校長、PTA関係者の方々を委員とする仙台市GIGAスクール推進協議会において助言をいただくとともに、教員や保護者の方のご意見を聴きながら進めてまいります。